

日本の教育の心を後世に伝え、世界遺産へ登録しよう。

世界遺産登録へのハードルは高い。そこで水戸市、足利市、備前市の3市は近世の教育遺産という概念で同種の遺産が連携したシリアル・ノミネーション(広範囲に分散する複数の遺産を一つの遺産群として世界遺産に登録する手法)を目指している。それをリードするのが各地域の新聞社である。前例のないユニークな取り組みだが、わずか1年で大きな成果をあげている。

3市が連携して世界遺産登録を目指す。

茨城県水戸市、栃木県足利市、岡山県備前市に共通するものがある。日本の近世を支えてきた教育施設だ。水戸市にある弘道館は全国最大規模の藩校、足利市の足利学校は日本最古の総合大学、そして備前市の閑谷学校は現存する最古の庶民教育施設としてそれぞれ名高い。

もちろん全国には他にも藩校など教育施設はあるが、この3市はこれらを世界遺産として登録し後世に伝えるための準備を行っている点でも共通している。もともとは個別に登録を目指していたが、なかなか候補に残れなかった。そこで、文化庁の助言もあり連携して取り組むことになったのである。

これに対して、3史跡の地元の新聞社である茨城新聞社、下野新聞社、山陽新聞社の3社も連動して「日本の教育遺産継承協議会」を立ち上げてサポートすることになった。

「世界遺産登録を支援するという目的もありますが、日本の教育の原点といわれている藩校の歴史的意義を地元市民にお伝えし、紙面やイベント等を通じて日本の教育文化を次世代に啓蒙・継承していくことを目的としています」と同協議会は述べている。

2009年7月には、山陽新聞、下野新聞、茨城新聞の3紙が3史跡の特集記事を組んだ。各紙がそれぞれの地域の史跡の紹介記事をまとめ、それらを交換する形で相手

新聞の社名を入れた記事を掲載したのである。地方紙としてはこれまでにない画期的な協力体制だった。

また、2010年1月30日には、3史跡の世界遺産登録を目指すシンポジウム「近世の教育資産を考える～足利学校・弘道館・閑谷学校」(備前市教委など主催)が岡山市の山陽新聞社「さん太ホール」で開かれた。それぞれの史跡の研究者と辻本雅史 京都大学大学院教授(教育史)が世界遺産登録を目指すための取り組みについて意見を交換し、また倉沢昭寿 前足利市文化財専門委員長らが各史跡の歴史的価値を紹介するなど、3市の協調ムードも高まった。

近世の教育を検証し、将来の教育に生かす。

当初から3市の足並みが揃っていたわけではない。世界遺産登録についても各市には温度差があったという。一方、協議会の方も最初は研究程度の集まりでしかなく、具体的な策はなかった。

「それが大きく転換したのは独自の企画を立てたことと、それを実現するための原資となるAJOSCからの助成が大きかった」と同協議会は分析する。

3紙が推進した企画として、新聞報道の他WEBでも「日本の教育遺産継承協議会」の名でサイトを立ち上げてクイズキャンペーンを2009年の6月と8月に行った。9月には世界的に有名なオカリナ奏者の宗次郎さんによる応援コンサートを、さらに10月には足利学校を舞台にヴァイオリンとピアノによる「世界遺産コンサート」を行った。こうした矢継ぎ早の企画が市民の意識を変え、徐々に熱を帯びた運動になっていく。各市や教育委員会のホームページ上で、他の2市の史跡を紹介するような取り組みも行われるようになった。さらには私塾「咸宜園」を有する大分県日田市もグループに加わることとなり、連携拡大も進んでいるようだ。

「郷土の教育遺産に対する関心の高まりというのは、裏を返せば現代教育への不安や不満にも起因している

と考えています。武士道や儒教といった精神的な支柱に支えられていた昔の教育と現在の教育を比較することで、今必要なことや地域のあり方も見えてきます。シンポジウムでも、以前の教育は『学び方を教える』ものであり、現在のよう回答を教えるものではなかったという意見がありました。ですから、この取り組みは近世の教育について検証しつつ、将来に残すための活動でもあるのです」(同協議会)

仮に世界遺産登録がかなわなくともこうした活動の意義は変わらない。第一段階の活動を終え、地域で盛り上がった機運をこのまま育てていきたいと協議会メンバーは考えている。

担当者より



助成が原動力となって運動が盛り上がりました

日本の教育遺産継承協議会
福場雅之さん

行政と新聞のタイアップ、地方紙同士のコラボレーション、今回の取り組みは活動形態を見ても新しい試みでした。その原動力がAJOSCの助成であることは間違いありません。おかげさまで3市民の意識は大きく変化したと感じております。この場をおかりして御礼申し上げます。



下野新聞社、茨城新聞社、山陽新聞社が組んだ3史跡の特集記事



岡山県で開催された3史跡の世界遺産登録を目指すシンポジウムの様子



世界遺産登録を盛り上げるため立ち上げたクイズキャンペーンWebサイト